



▲店内には各種パーツが豊富にそろっている。

る。だから、チャレンジのパーツは、性能、耐久性においては、完璧なまでに仕上げられており、信頼度はバツグンなのだ。

チーフメカニックの有馬さんはL型はもちろん、トヨタ系2T—Gエ

ンジンやロータリー車などを受け持っているベテランで「ウチには、2T—Gやロータリー車も意外に入っていますね」という。2人のベテランメカのコンビネーションが、ホットなストリートマシンを生み出して

いるのである。したがって、ゼロヨンにかける意気込みも相当なもので、ここには、それに刺激された仲間たちがたくさん集まってくる。クルマ好きの人達が集まるにぎやかな楽しいショップである。

★チューニングテクニク★

排気量をおさえて、パワーを引き出すのが本当のチューン

エンジンパワーの30%近くが熱にとられてしまう。したがって、エンジンをチューンする上での基本的な問題として、消費出力をどれだけおさえられるかによって、パワーは決まってしまうわけだ。「ゼロヨンマシンに限らず、パワーロスをとこまておさえるかで性能は決まっていますね」と店長の牧原さん。チャレンジのチューニングで最も

極限に近いチューンは2868ccだ。このエンジンは5速で、8800回転までまわってしまうほどの性能をもつ。ピストンは87・8mmを使用したフルチューンだ。チャレンジの3100cc、3200ccエンジンは高回転域の吹け上がりでは定評が高い。しかし、パーツの耐久性などの問題で、パワーアップは限界だという。「ほんとうのチューニングで最も